

理学部附属 植物園のいきものたち

第6回

今回は阪神タイガースのリーグ優勝を記念して虎特集です。

●写真上は交尾中のハンミョウ。英名 tiger beetle。

ハンミョウ(斑猫)という名前は中国名に由来するが、もともとは毒薬カンタリジンの採れるツチハンミョウやマメハンミョウを指す言葉であったらしい。現代中国語では斑とか虎虫という。タマムシと並ぶ日本で最も美しい甲虫の一つであり、日本に産するハンミョウ類の中で最も大きくて美しい。植物園では8月後半から10月初旬にかけて特に多く見られる。日当たりのよい裸地を好むので、植物園の歩道を歩いているといやでも目につく虫である。成虫の一部は越冬して翌春にも現れるが、9月に比べると数はずっと少ない。



●写真下は吸血中のヒトスジシマカ。英名 tiger mosquito。

和名は胸部前面中央の白い縦条と腹部の縞模様になむ。英名は腹部の横縞を虎模様と見立てての命名である。縦縞ではないかと思われるかもしれないが、虎の縞模様はもともと体軸方向に対して垂直つまり横縞であり、タイガースの縦縞のユニフォームのほう解剖学的に間違っているのである。この蚊は熱帯から暖温帯にかけて広く分布する種で、叩き潰したときに白黒の縞模様が皮膚にくっきりとプリントされるあの蚊である。皮膚に模様がつくのは蚊の体表の鱗粉が写るからである。夏に植物園の林内を散策するときには長袖の服を着用しないとこの蚊に悩まされることになる。(撮影・解説:樋上正美)

